令和元年度「大学スポーツ振興の推進事業」

成果報告書

【中京大学】

委託期間：令和元年 10 月 1 日～令和 2 年 3 月 19 日

令和 2 年 3 月

目次

Ⅰ　スポーツ分野の統括業務の実施状況について　・・・・・ 1

Ⅱ　大学スポーツアドミニストレーターの配置の状況について　・・・・・ 2

Ⅲ　先進的モデル事業の実施状況について　・・・・・ 4

(1) 学生アスリートの安全安心の環境整備　・・・・・ 5

(2) 指導者研修プログラム及び学生派遣時のガイドラインの策定　・・・・・ 14

(3) 東海地区スポーツアドミニストレーター育成　・・・・・ 17

(4) スポーツを通じた地域活性化と収益力向上に向けた取り組み　・・・・ 別紙
（中京大学子どもスポーツフェスタ）

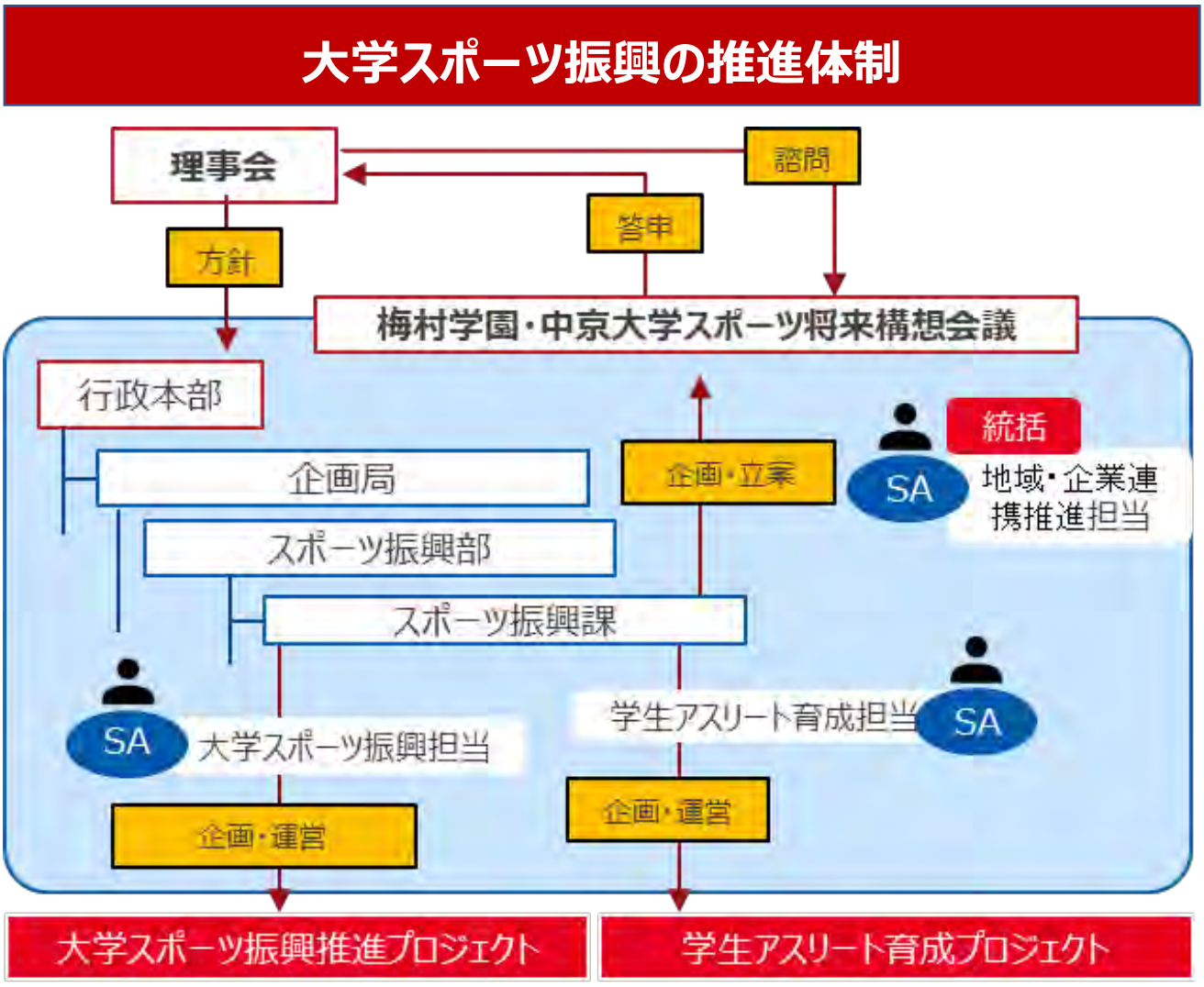
(5) 学生アスリートのグローバルキャリア育成　・・・・・ 22
（海外の学術協定校との定期交流戦の実施）

Ⅰ　スポーツ分野の統括業務の実施状況について

本学には大学スポーツの統括組織として、2007 年からスポーツ振興部が存在し、現在 3 名のスポーツアドミニストレーター（以下、SA）を配置している。設置当初、学生支援課より分離し、学生の体育会活動支援が主な業務に位置付けられていたが、2016 年に行われた学内組織の再整備により学園経営戦略部、広報部（広報課、入試センター、入試広報課）等と同じ企画局内に配置され、体育会学生支援だけでなく、スポーツを通した産官学連携が課内の主な業務として位置付けられた（下記資料「産官学での取組実績」参照）。

時を同じくして、理事会の諮問機関「梅村学園・中京大学スポーツ将来構想会議」が 2015 年 9 月に設置され、学園におけるスポーツの在り方や中長期計画等が議論されている。スポーツ分野の統括業務における、組織図は下記の通りとなる。

これまで SA3 名の役割を明確に区分してこなかったこともあり、本事業実施を契機とし、課内で SA の役割及び体制を再整備した。3 名の SA はそれぞれ総括兼地域・企業連携推進担当（スポーツ×子育てフェスタ）、大学スポーツ振興担当（安全・安心な環境整備、ＳＡ育成）、学生アスリート育成担当（指導者育成、グローバルキャリア育成）に役割を分け、相互に補完しながら政策を進めた。



Ⅱ　大学スポーツアドミニストレーターの配置の状況について

大学スポーツアドミニストレーターが担っている役割・具体的に行った業務

① 総括兼地域・企業連携担当 SA

これまでに連携している様々な機関（豊田市、トヨタ自動車、名古屋テレビ、ミズノ、東海東京フィナンシャルホールディングス、ＮＴＴ西日本など）との連携を軸に、地域の課題解決に大学スポーツを活用するための施策を実行する。

本委託事業に関しては、主に「スポーツを通じた地域活性化と収益力向上に向けた取り組み」として中京大学子どもスポーツフェスタの総括とし、2019 年 11 月 17 日（日）に開催した。

② 大学スポーツ振興担当 SA

2018 年 3 月に本学で開催した「大学スポーツ推進フォーラム in 名古屋」や 2019 年 7 月に筑波大学と共催で開催した「大学スポーツ改革シンポジウム」のノウハウやネットワークを駆使し、他大学と連携しながら東海地区の大学スポーツの基盤を底上げする。また、大学スポーツ改革の根幹となる安全安心な環境整備に関して、学内組織やスポーツ科学部の教員と連携し、注力する。

本委託事業に関しては東海地区大学 SA 研修会、学生アスリートの安全安心の環境整備の主担当とし、アスレチックトレーナー（以下、AT）カリキュラム受講学生及び AT 資格取得者（大学院生）

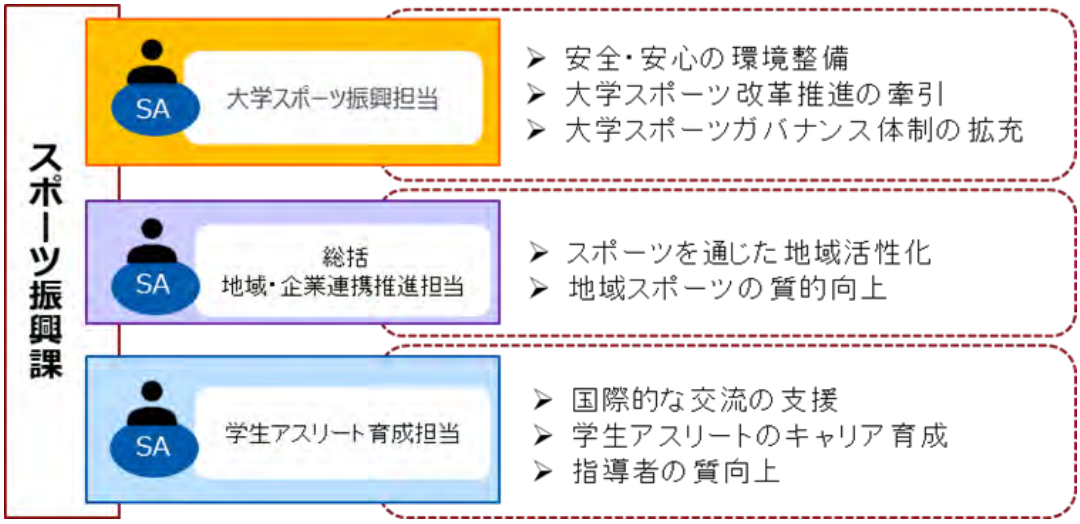
を対象とした研修会、全クラブの安全担当学生を対象とした安全講習会、第一回東海地区大学 SA 研修会を開催した。

③ 学生アスリート育成担当 SA

学生のキャリア支援等を充実させるべく、根本の問題である指導者の意識改革を目指す。同時に海外の学術交流協定校とスポーツを通じて交流することで学生アスリートのグローバルキャリアの醸成を図る。

本委託事業に関しては指導者研修プログラム及び学生派遣時のガイドラインの策定、学生アスリートのグローバルキャリア育成事業の主担当とし、本学の重点強化 6 クラブの指導者を対象とした指導者研修会及び海外渡航学生への研修プログラムを実施した。

※コロナウイルス感染拡大に伴い、海外の学術協定校への派遣を中止した。



Ⅲ　先進的モデル事業の実施状況について

大学スポーツにおける先進モデルの企画・立案及び実施

学生アスリートの安全安心の環境整備

①体育会各部への安全安心担当2名の配置を必須化
②安全講習会の実施（出席率：93%）
参加者:体育会各部安全安心担当者93名
内　容:①10分テスト（一次救命処置）
②15分解説
③救急対応実技

③トレーナー研修（計3回）
【第1回】可動域獲得のためのエクササイズの理論と実践
【第2回】ファンクショナルカッピングメソッド（FCM）による身体アプローチ
【第3回】筋膜ケアからのアプローチ

④ 附属校へのATの配置推進
12月から毎週木曜日に派遣を開始
⑤先進的な取り組みをしている学校への視察
早稲田実業高校、浪商高校

指導者研修プログラム及び学生派遣時のガイドラインの策定

①指導者研修会を2回実施
内　容:就職活動の現状（第一回研修会）
学生の安全安心（第二回研修会）

東海地区スポーツアドミニストレーター育成

①東海地区大学SA研修会
参加者:愛知大学、愛知学院大学、日本福祉大学、至学館大学、中京大学、東海学園大学、名城大学
内　容:1.神奈川大学の先進事例発表
2.中京大学の事例発表
3.討議

②先進的な取り組みをしている学校への視察
福岡大学、武庫川女子大学、新潟医療福祉大学

スポーツを通じた地域活性化と収益力向上に向けた取り組み

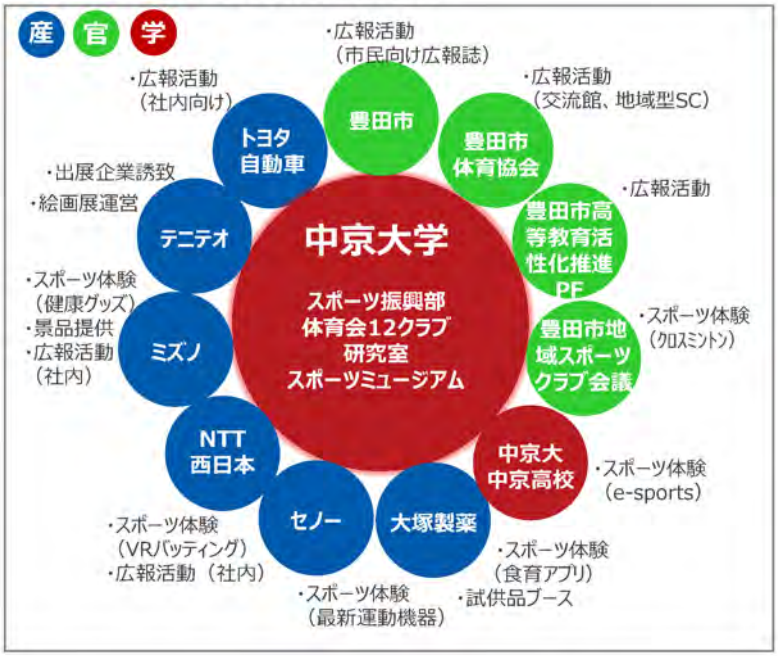
①中京大学子どもスポーツフェスタ
目的:1.スポーツ選択の場の提供
2.体力の向上及びスポーツ普及
3.産官学連携による地域活性化及び地域経済の活性化
4.学生アスリートのキャリア形成
参加者:約1,000組3,000名
内　容:スポーツ教室(有料)　:9
スポーツ体験(無料)　:13
見学イベント　:6
共　催:トヨタ自動車、豊田市ほか

学生アスリートのグローバルキャリア育成（海外の学術協定校との定期交流戦の実施）

①渡航学生への研修プログラム
参加者:渡航予定のサッカー部員:40名
マネージャー1名、指導者3名
内　容:東アジア国際社会のなかの日本と台湾
※コロナウイルス感染拡大に伴い渡航中止

スポーツを通じた地域活性化と収益力向上に向けた取り組み

■中京大学子どもスポーツフェスタ実施体制と役割



■開催目的

- スポーツ選択の場の提供
- 体力の向上及びスポーツ普及
- 産官学連携による地域活性化及び地域経済の活性化
- 学生アスリートのキャリア形成

【学生アスリートの安全安心の環境整備】

① スポーツ活動の場への AT カリキュラム受講学生及び安全担当学生の配置推進

体育会と連携し全クラブに安全担当学生の配置を義務化した。

また、スポーツ科学部教員と連携し、安全講習会の内容を決定後、下記日時にて実施した。

対象：体育会 49 団体の安全担当係各 2 名(1～3 年次学生)＋文化会 晴地舞　2 名　　計 100 名

※出席率 93%（対象者 100 人中 93 名出席）

日時：11 月 4 日(月) 17：30～19：00、11 月 18 日(月) 17：30～19：00

場所：中京大学豊田キャンパス 18 号館 6 階 AT 実習室

研修内容：10 分テスト（一次救命処置に関するテスト）実施後、15 分解説

テストをもとに救急対応の必要性、救急対応の方法論について実技 1 時間　計 1.5 時間

講師：大見卓司トレーナー（スポーツ振興課所属 AT）

アシスタント：倉持梨恵子スポーツ科学部准教授、崎濱星耶スポーツ科学部助教

体育会の全クラブ活動に指導者が必ず帯同するということは現実的に難しく、学生のみで活動せざるを得ない場合がある。その場合、一次救命措置に関する諸知識を理解しているか否かで生存確率が大きく異なることは明らかである。

2019 年度より本学では体育会全 49 団体に安全担当の 2 名配置と 1 次救命処置に関する研修を義務付けた。1 次救命措置に関する理解度を問う 10 分間テスト実施後、救急対応の方法論について実技を踏まえた研修を実施した。

競技中に実際に心停止に陥り AED を使用した事例を映像で流し、実例を踏まえ解説することで受講者がより自分事として捉える工夫を施した。また、死戦期呼吸の判断基準も明確に示し、実例を踏まえながら解説した。

1 次救命措置に関する理解度を問う 10 分間テストの正答率が講義前には 6～7 割であったが、講義後は 9 割以上となった。

一次救命処置に関する確認テスト

2019年11月4日(月)　　講義前・後
中京大学体育会　安全講習会

部活名：　　名前：

一次救命処置（BLS：Basic Life Support）に関する確認テスト

一次救命処置についての知識・理解に関する質問です。
あてはまると思われる番号に直接○印をつけてください。質問内容について、
聞いたことがない・判断できない場合は「わからない」に○印をつけてください。

		1 正しい	2 正しくない	3 わからない
Q1.	1人で傷病者を発見した時の対応手順として、119番通報・AEDの手配を心肺蘇生の実施よりも前に行う。	1	2	3
Q2.	普段通りでない呼吸（あえぎ呼吸など）がみられる場合には、心肺蘇生法をせずに様子を観察しておく。	1	2	3
Q3.	心肺蘇生法は、胸骨圧迫→気道確保→人工呼吸の順番で実施することが推奨されている。	1	2	3
Q4.	人工呼吸は必ずしも実施する必要はない。	1	2	3
Q5.	正常な心臓に胸骨圧迫をすると心停止を起こす。	1	2	3
Q6.	胸骨圧迫の深さは効果に影響を与えない。	1	2	3
Q7.	身体が濡れている場合にAEDを使う時は、全身の水滴を取り除かなければならない。	1	2	3
Q8.	救助者が2人いる場合には、AEDの電極パッドを貼る間も心肺蘇生法を続けるべきである。	1	2	3
Q9.	AEDによる電気ショック実行後は、胸骨圧迫は一旦中断する。	1	2	3
Q10.	救急隊の到着までの間にAEDが使用できないと、心肺蘇生法を実施しても救命に繋がらない。	1	2	3

一次救命処置に関する確認テスト結果

			問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10	総得点平均
第一回(39 名)	講義前	正答者数	30	21	18	33	12	38	10	31	19	33	6.28
		正答率	77%	54%	46%	85%	31%	97%	26%	79%	49%	85%	
	講義後	正答者数	38	38	34	37	39	39	39	39	39	39	9.77
		正答率	97%	97%	87%	95%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
第二回(52 名)	講義前	正答者数	36	34	26	44	13	48	9	43	36	47	6.46
		正答率	69%	65%	50%	85%	25%	92%	17%	83%	69%	90%	
	講義後	正答者数	52	52	50	51	52	52	52	49	42	51	9.67
		正答率	100%	100%	96%	98%	100%	100%	100%	94%	81%	98%	

次年度安全講習会実施計画

次年度も引き続きスポーツ科学部教員と連携のもとに実施する。講師は引き続き大学雇用の AT を予定。実施結果を研究等にも反映できるよう進めていく。

② リコンディショニングサポートの再整備

現在、学内において“リコンディショニングサポート”というアスリートのリハビリテーションからコンディショニングまでをサポートするシステムを展開しており、日本スポーツ協会公認 AT 資格を有する本学教職員及び大学院生の約 10 名がスタッフとして活動している。

学生アスリートサポートの底上げを目的にリコンディショニングサポートスタッフである AT カリキュラム受講学生及び AT 資格取得者（大学院生）を対象とした研修会を下記の通り実施した。

・第一回トレーナー研修会

日時：11 月 12 日（火）13：00～17：00

対象：教職員、AT カリキュラム受講学生及び AT 資格取得者（大学院生）

講師：阿部勝彦氏（日本バスケットボール協会パフォーマンスコーチ）

内容：“可動域獲得のためのエクササイズの理論と実践”というテーマで行われた。研修の前半ではエクササイズを実施するための理論として、競技に活かすことのできる関節可動域の考え方を学んだ。後半では自らの身体でエクササイズを実践することで、アスリートに指導する際の注意点などを学ん

だ。本研修会で学んだ内容をアスリートのリハビリ等の手法の１つとして用いることにより、今後のアスリートサポートの質を向上させられると考えられる。

・第二回トレーナー研修会

日時：2019 年 12 月 19 日（木）17：00～19：00

対象：教職員、AT カリキュラム受講学生及び AT 資格取得者（大学院生）

講師：橘内基純氏（元東京ヤクルトスワローズ　1 軍コンディショニングコーチ）

内容：ファンクショナルカッピングメソッド（FCM）による身体アプローチというテーマで行われた。カッピングを使用することで、関節可動域や筋の柔軟性を効率的に改善するための方法論を学んだ。普段触れることのない技術であり現場に即した内容であったため、思考の枠を広げる非常に有意義な時間となった。

・第三回トレーナー研修会

実施日時：2020 年 1 月 17 日（金）17：30～20：30

対象：教職員、AT カリキュラム受講学生及び AT 資格取得者（大学院生）

講師：中本　亮二氏（Reboot Life 代表　筋膜ケアスペシャリスト）

内容：“筋膜ケアからのアプローチ”というテーマで行われた。筋膜の簡単な解説後に下記の主な事例に対するアプローチを実践した。

・ハムストリング肉離れの後遺症
　大腿二頭筋短頭、縫工筋と大内転筋との境、梨状筋、内側広筋へのアプローチ
・足関節捻挫後の後遺症
　短趾伸筋、長趾伸筋、母趾内転筋、腓骨筋群へのアプローチ
・股関節の詰まり症状
　筋膜調整箇所（腹直筋、鼠径部、大腿筋膜張筋）へのアプローチ

③　附属高校への AT の配置推進

「中京大学附属中京高等学校トレーナールーム設置プロジェクト」として、附属高校への大学所属 AT の試験的派遣の実施検証を進めている。学校単位で本事業のような取り組みを導入している高等学校は少なく、大学と高等学校が連携しているケースは稀である。そのため、本事業を開始するに至った経緯等を AT 学会の特集記事にも投稿している。

計画では 2019 年 9 月から実施予定であったが、対象とする部活動の選定、教員（指導者）への AT の職務等の説明を十分にする必要があり実施が遅れた。12 月から毎週木曜日に AT を試験的に派遣した。詳細は下記の通り。

活動期間：2019 年 12 月 5 日（木）～2020 年 2 月 20 日（木）※毎週木曜日
開室回数：8 回
設置場所：中京大学附属中京高等学校体育館
利用者：20 名（延べ人数 41 名）、
　　1 年生 10 名、2 年生 7 名、3 年生 3 名
　　（陸上競技 10 名、バレーボール男子 3 名、バレーボール女子 4 名、バドミントン男子 3 名）
傷害部位：腰部 10 件、足部 4 件、肩関節部 2 件、大腿部 2 件、膝関節部 2 件、手指部 1 件、
　　股関節部 1 件、下腿部 1 件

実施にあたり、まずは本取り組みを生徒に認知してもらう必要があり、あえて目立つ体育館の一角にブースを構えた。訪れた生徒に対して、初回は時間をかけ身体評価を行いつつ、ケガに関する各種相談(アスレティックリハビリテーション、リコンディショニング)を中心に生徒の要望に合わせたサポートを行った。

利用者が増え、附属高校内で優れたと取り組みだという認識が広がり、2020 年 3 月 3 日に行われた附属高校の体育教員との打ち合わせにて次年度継続の承諾を得ることができ、次年度以降は保健室の養護教諭と連携体制をとることが決定された。

今後も継続して、大学スポーツ振興担当 SA の管理下のもと、本事業を成功事例として確立させ、他の教育機関へ横展開できるような制度設計を試みる。また、高校内の傷害事例を分析し、研究にも反映することを視野に入れる。

トレーナールーム問診表（サンプル）

年　　月　　日

トレーナールーム問診票

ふりがな		学年	
名前		クラス	
所属 部活		ポジション	

1. 来室理由

（　　）

2. 症状が出た日時（時期でも可 ※例: 1年春ごろ）

2019年　　月　　日　　時頃

3. 症状が出た場所

□体育館　□土グラウンド　□人工芝　□タータン　□その他（　　）

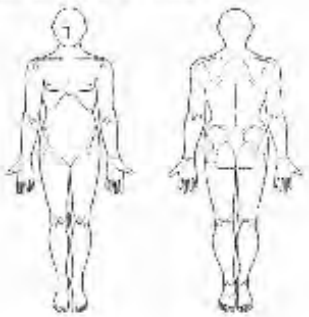
4. 発生状況

□試合中　□練習中　□その他（　　）

5. 発生原因（例: バランスを崩して足首をひねった，同じ動きを繰り返して痛くなった）

（　　）

6. 痛みのある、気になる部位に○をつけてください



7. 病院の受診有無

□無　□有　（病院名：　　診断名：　　）

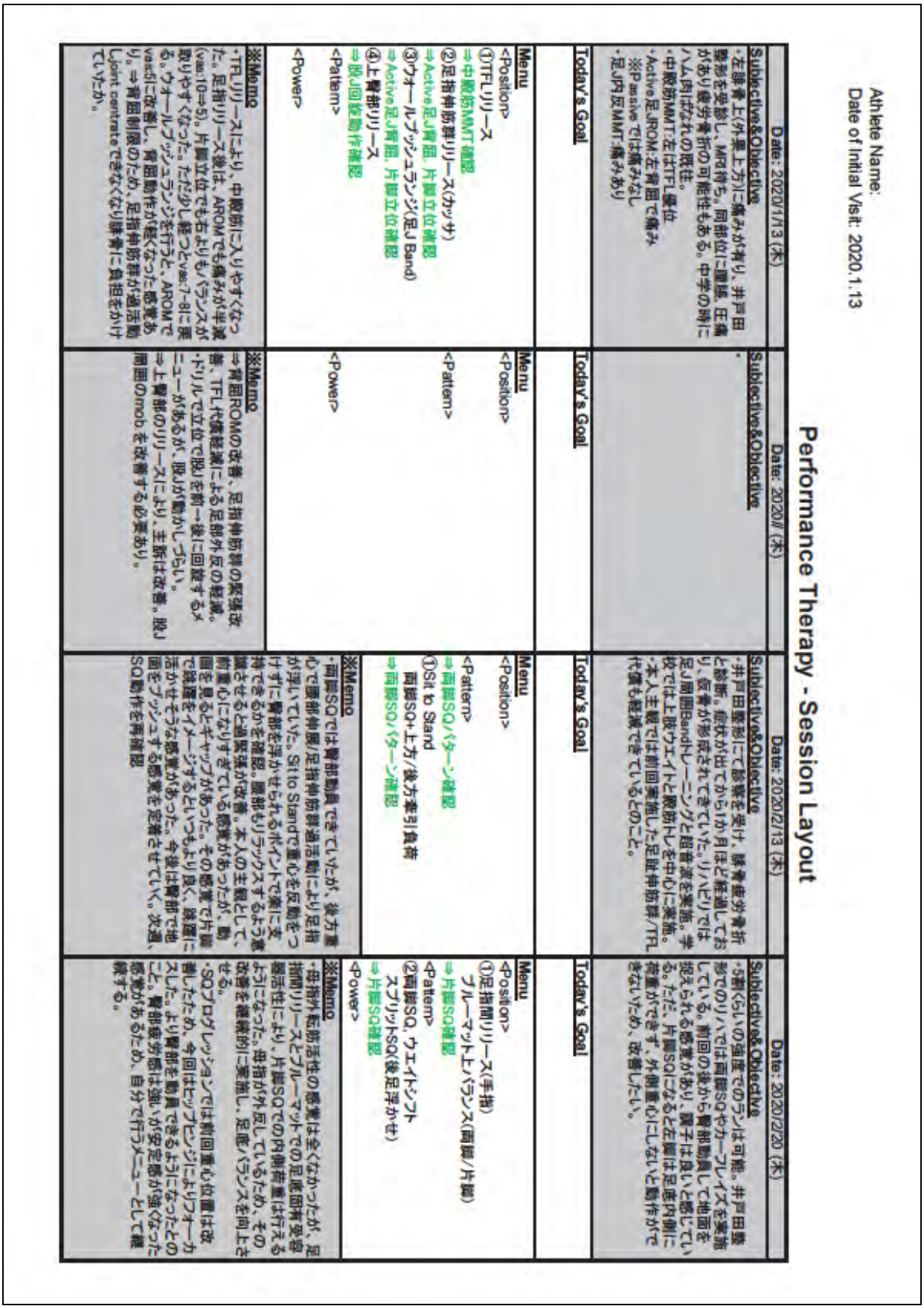
8. トレーナールームで希望するサポート

□テーピング　□リハビリ　□救急処置　□ケガの予防トレーニング

□その他（　　）

中京大学付属中京高等学校トレーナールーム 設置プロジェクト

利用学生カルテ（サンプル）



Athlete Name:
Date of Initial Visit: 2020.1.13

Performance Therapy - Session Layout

Date: 2020/1/13 (木)	Date: 2020/// (木)	Date: 2020/2/13 (木)	Date: 2020/2/20 (木)
Subjective&Objective ・左膝骨上(外果上方)に痛みが有り、井戸田整形を受診し、MRI待ち。同部位に腫脹、圧痛があり疲労骨折の可能性もある。中学の時にハムストリング肉ばなれの既往。 ・中殿筋MMT:左はTFL優位 ・Active足JROM:左背屈で痛み ※Passiveでは痛みなし ・足JPN反MMT:痛みあり	**Subjective&Objective** ・	**Subjective&Objective** ・井戸田整形にて診察を受け、脛骨疲労骨折と診断。症状が出てから1か月ほど経過しており、仮骨が形成されてきていた。リハビリでは足J周囲Bandトレーニングと超音波を実施。学校では上肢ウエイトと殿筋トレを中心に実施。 ・本人主観では前回実施した足趾伸筋群/TFL代償も軽減できているとのこと。	**Subjective&Objective** ・5割くらいの強度でのランは可能。井戸田整形でのリハでは両脚SQやカーブレイズを実施している。前回の後から臀部動員して地面を捉えられる感覚があり、調子は良いと感じている。ただ、片脚SQになると左膝は足底内側に荷重ができず、外側重心にしないと動作ができないため、改善したい。
Today's Goal	**Today's Goal**	**Today's Goal**	**Today's Goal**
Menu <Position> ①TFLリリース ⇒中殿筋MMT確認 ②足指伸筋群リリース(カッサ) ⇒Active足J背屈、片脚立位確認 ③ウォールプッシュランジ(足J Band) ⇒Active足J背屈、片脚立位確認 ④上臀部リリース ⇒股J回旋動作確認 <Pattern> <Power>	**Menu** <Position> <Pattern> <Power>	**Menu** <Position> <Pattern> ⇒両脚SQパターン確認 ①Sit to Stand 両脚SQ+上方/後方牽引負荷 ⇒両脚SQパターン確認	**Menu** <Position> ①足指間リリース(手指) ブルーマット上バランス(両脚/片脚) ⇒片脚SQ確認 <Pattern> ②両脚SQ、ウエイトシフト スプリットSQ(後足浮かせ) ⇒片脚SQ確認 <Power>
※Memo ・TFLリリースにより、中殿筋に入りやすくなった。足指リリース後は、AROMでも痛みが半減(vas:10⇒5)。片脚立位でも右よりもバランスが取りやすくなった。ただし経つとvas:7-8に戻る。ウォールプッシュランジを行うと、AROMでvas:5に改善し、背屈動作が軽くなった感覚あり。⇒背屈制限のため、足指伸筋群が過活動Joint contrateできなくなり脛骨に負担をかけていたか。	**※Memo** ⇒背屈ROMの改善、足指伸筋群の緊張改善、TFL代償軽減による足部外反の軽減。 ・ドリルで立位で股Jを前→後に回旋するメニューがあるが、股Jが動かしづらい。 ⇒上臀部のリリースにより、主訴は改善。股J周囲のmobを改善する必要あり。	**※Memo** ・両脚SQでは臀部動員できていたが、後方重心で腰部伸展/足指伸筋群過活動により足指が浮いていた。Sit to Standで重心を反動をつけずに臀部を浮かせられるポイントで楽に支持できるかを確認。腰部もリラックスするよう意識させると過緊張が改善。本人の主観として、前重心になりすぎている感覚があったが、動画を見るとギャップがあった。その感覚で片脚で挑戦をイメージするといつもより良く、挑戦に活かせそうな感覚があった。今後は臀部で地面をプッシュする感覚を定着させていく。次週、SQ動作を再確認	**※Memo** ・母指外転筋活性の感覚は全くなかったが、足指間リリースとブルーマットでの足底固有受容器活性により、片脚SQでの内側荷重は行えるようになった。母指が外反しているため、その改善を継続的に実施し、足底バランスを向上させる。 ・SQプログレッションでは前回重心位置は改善したため、今回はヒップヒンジによりフォーカスした。より臀部を動員できるようになったとのこと。臀部疲労感は強いが安定感が強くなった感覚があるため、自分で行うメニューとして継続する。

④　先進的な取り組みをしている学校への視察

・早稲田実業高校へのヒアリング

高校でトレーナールームを設置している先進的な事例として早稲田実業高校へのヒアリングを下記の通り実施した。

日時：2019 年 11 月 8 日（金）13：30～16：30
場所：早稲田実業高校
面会者：スクールアスレチックトレーナー　小出敦也氏

早稲田実業高校は、学校内での部活動中に発生するケガや事故に対して迅速かつ適切に対処できるよう、AT の資格を有するトレーナーを 2005 年度から常勤講師として 1 名雇用している。業務内容は、トレーナールームでのケガのリハビリ、試合及び練習への帯同、学校内における安全管理・救急対応についての学内外教職員への講習会の実施が中心となっている。トレーナールームは主に昼休みと放課後の時間帯に開室されている。中学校及び高等学校合わせた 51 の部活がサポート対象であり、1 日当たりの利用者は数十名にのぼる。

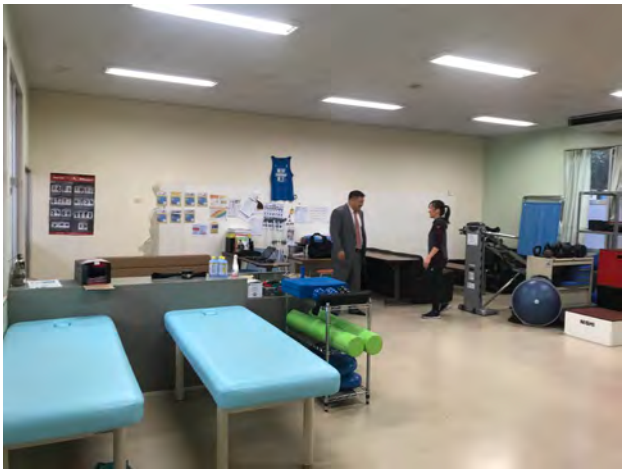
学校現場における体育活動中の死亡事故は①心臓疾患・②熱中症・③頭部外傷の順に発生割合が高いことから、当校では特にこの 3 つのスポーツ事故に対する重点的な対策を講じていた。共通する取組として、「緊急時対応計画(EAP)」を各施設に設置し周知を徹底していた。EAP には緊急時の対応手順が示されており、この EAP をみることで教職員及び生徒の誰もが緊急時対応をできるようにするための工夫がなされていた。また、②熱中症に関する取り組みとして、暑熱環境を測定する「WBGT」や深部体温を測定する「Vit Thermo(鼓膜温測定器)」を導入しており、NCAA(全米大学体育協会)が提唱するガイドラインを参考資料として提示することで、教職員及び指導者の理解を得るための助けとし、経験則のみに頼らないエビデンスに基づいた予防対策を講じていた。③頭部外傷についても同様の取り組みが見られ、さらに、これらの 3 つのスポーツ事故の他にも、落雷に関するガイドラインについて学内で独自に作成しており、学内における体育活動時の安全管理を徹底している印象を受けた。これらの事故に対する認知向上のために定期的な教員への講習会を実施しており、学校全体で学内の安全環境の整備に取り組んでいると感じた。

・浪商高校へのヒアリング

高校でトレーナールームを設置している先進的な事例として浪商高校へのヒアリングを下記の通り実施した。

日時：2019 年 11 月 19 日（火）14：00～16：30
場所：大阪体育大学浪商高等学校
面会者：浪商高等学校教頭　工藤哲士　先生
同トレーナー　坂内悠　氏、高津智光　氏
大阪体育大学スポーツ局係長　姫路文博　氏

大阪体育大学浪商高等学校のトレーナールームの視察およびヒアリングを行った。すでに視察を終えた早稲田実業高校での実例を踏まえ、当校における学校施設や設備面での工夫やトレーナールームの運営状況とトレーナー業務に関する高大連携についての実状を伺った。浪商高校は 2 名の専属トレーナーが常駐し、各部へのサポート、安全管理を実施している。特に各部指導者との連携が綿密なコミュニケーションにより十分に機能しており、本学にとっても非常に参考になる事例であった。また、早稲田大学の細川教授と熱中症に関する共同研究を実施しており、高等学校における熱中症の発生件数等のデータ提供をしていた。高大連携の研究にも結び付く好事例と言える。



【指導者研修プログラム及び学生派遣時のガイドラインの策定】

①第一回指導者研修プログラム

第一回指導者研修プログラムとして、重点強化 6 クラブ指導者と他のクラブ指導者（任意参加）を対象とした研修会を下記のとおり実施した。

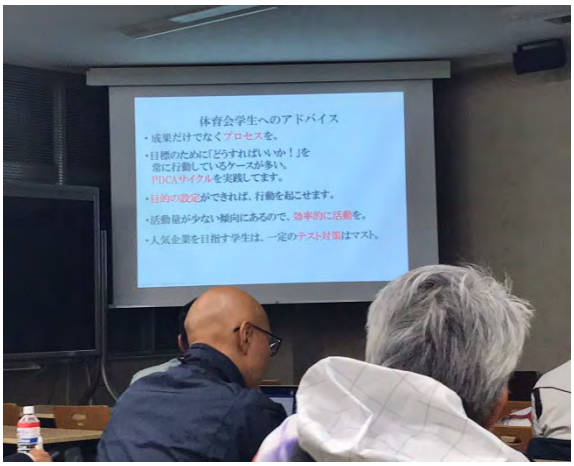
日時：2019 年 12 月 6 日（金）17：00～18：00
場所：中京大学豊田キャンパス
参加者：　強化 6 クラブ＆10 クラブ指導者（任意参加）　 17 名
講師：　渡辺　剛　氏（株式会社ディスコ名古屋支社長）

内容：就職活動の現状について（主な内容は下記の通り）

① 2020 年 3 月卒業予定者の採用見込み
② 自社の採用活動の見通し（難易度）
③ 採用活動のスタンス
④ 採用活動の開始予定時期
⑤ 2020 年卒採用のテーマ
⑥ ゴールデンウィーク中の採用活動
⑦ 3 月より前に実施した企業広報
⑧ インターンシップ実施状況
⑨ 2019 年 3 月卒業予定者の選考終了状況

学生アスリートのキャリア形成の理解を深めるためには、実際の指導現場に立つ大人の視点が変わる必要がある。株式会社ディスコより担当者を招聘し、「キャリタス就活」掲載企業など全国の有力企業を対象に実施した調査をもとに、企業の採用方針や施策について分析した最新の状況、特徴についての研修会を実施した。就職活動を経験したことがない指導者だけでなく、過去に体験した就職活動と現状がはっきりと異なることがよく理解できた研修会であった。30 代以上の指導者が多いこともあり、特に「インターンシップ」に関する認識が当時と大きく異なることが明確となった研修会であった。

質疑応答の時間には活発な意見交換がなされ、非常に有意義な時間となった。



②第二回指導者研修プログラム

第二回指導者研修プログラムとして、重点強化 6 クラブ指導者を対象とした研修会を下記のとおり実施した。

日時：2020 年 1 月 10 日（金）17：00～18：00
場所：中京大学豊田キャンパス
参加者： 強化 6 クラブ指導者名
講師：大見　卓司　氏
内容：大学スポーツにおける重大事故の予防（主な内容は下記の通り）

① 重大事故の概要（頭部外傷、頸部外傷、熱中症、心停止）
② 重大事故の予防と対応
③ 事故発生時の対応フロー

重点強化 6 クラブの指導者を対象に、本学常勤のアスレチックトレーナー大見卓司氏がスポーツ現場で発生する重大事故の概要とその予防策を説明した。テキストには一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）が作成した安全安心ガイドラインを使用した。

当初、「会計」をテーマとした研修会を計画していたが、指導者からの要望を踏まえ、安全安心の環境整備を優先し、本テーマに決定した。

対象となった重点強化 6 クラブの指導者には、ある程度前提となる知識が備わっていることから起こりえる重大事故の概要（頭部外傷、頸部外傷、熱中症、心停止）を簡単に説明し、議論を踏まえながら予防と対策に時間を費やした。また、競技中に心停止に陥り AED を使用したケースや死戦期呼吸が発生したケースを映像で見せ、事故発生時の対応フローを確認した。

研修会受講者へのヒアリング

重点強化 6 クラブ（陸上競技、スケート、硬式野球、サッカー、アメリカンフットボール、水泳）の指導者にヒアリングを実施した。全体的に前向きな意見が多かった。詳細は下記の通り。

第一回指導者研修プログラム（就職活動）について

・現在の就職活動の流れがよくわかった。
・こういった情報は普段スルーしてしまう内容なので今後の指導に役立った。
・インターンシップの位置づけが自分たちの就職活動の時と異なっていて参考になった。
・今回の話を聞いて、現場としては就職活動と体育会活動の両立が非常に難しい課題だということを改めて認識した。
・本研修を経たおかげで、インターンシップのウェイトが非常に大きくなっていることをクラブ指導の中でも伝えることができる。

・もう少し就職活動と体育会活動の両立を中心とした現場目線の内容でもよかった。
・学生の社会人基礎力を育てるための研修もぜひ実施して欲しい。

第二回指導者研修プログラム（安全安心）について
・UNIVAS のテキストがよくできていて、事故発生時のフローチャートを確認できたのは勉強になった。
・脳震盪等の事故とは縁がない種目なので想像の範囲外にあったが、可能性はあることを認識することができクラブ活動の「安全管理」を考え直すいい機会になった。
・とてもいい研修だったので、重点強化クラブだけではなく他のクラブ指導者にも実施するべき。
・屋外の競技なので、熱中症対策は避けては通れない。学生たちにも今回の内容を指導してほしい。
・事故がそのまま死につながる種目なので、改めてコーチ等の指導者にも共有したい。
・近隣の大学で数年前に死亡事故があったので、非常に考えさせられる研修だった。

次回以降の研修について（指導者現状調査）
重点強化クラブ指導者に、指導者研修に関する現状調査を行った。各指導者の主な意見は下記のとおり。

・会計についての知識がなく主観的に判断していることがあるため、クラブ内の会計に関する研修をぜひ受けたい。
・デュアルキャリアに関する研修をもう一度受けたい。
・まずは安全管理に関する研修を体育会クラブ全体に広げるべきではないか。
・学外指導者も含めて、参加するよう促したほうがいい。ただその場合、頻繁に実施するのも負担になるので、例えば 1 年に 2 回実施する部長監督連絡会のタイミングで開催してはどうか。
・なかなかシーズン中は研修を受ける余裕がない。チームのオフの時期に実施してほしい。
・安全管理に関する研修はぜひ学生たちにも広げてほしい。学生たちと共有するべき。
・コーチング、競技力向上に関する研修は競技によって異なるため、専門外の研修がありがたい。
・男性指導者が女性アスリートを指導する場合の女性特有の問題を理解する研修だとありがたい。
・現在の学生と世代間のギャップを最近よく感じる。ハラスメントに関するおさらいをもう一度周知徹底させるような研修も必要だと感じる。
・地震等による危機管理（遠征先での事故）対応フローを知りたい。

【東海地区 SA 育成】
①東海地区大学 SA 研修会
第一回東海地区大学 SA 研修会を下記の通り実施した。

日時：2019 年 12 月 4 日（水）13：00～17：00
場所：中京大学名古屋キャンパス
参加大学：愛知大学、愛知学院大学、日本福祉大学、至学館大学、中京大学、東海学園大学、
名城大学
講師：神奈川大学スポーツ戦略室　室長　勝又章好　氏

内容：13：00～13：20　本研修会の趣旨説明
13：20～14：00　神奈川大学の事例発表
14：00～16：20　討議
16：20～16：45　中京大学の事例発表
16：　45～16：55 討議
17：00　閉幕

神奈川大学の先進的な事例発表を聞いた後に質疑応答をメインとした討議を展開した。各大学から、予想していたよりも多くの質問が飛び交い、議論が白熱したため、討議は約 2 時間 20 分に及んだ。神奈川大学はスポーツ指導者の人事権、施設修繕、奨学金枠等の管理をスポーツ戦略室が一元的に管理しており、さらには指導者の立ち位置も明確であるため、まさに米国の AD をモデルとした仕組みになっている。そのため、上記の制度設計に関する質問や議論が白熱し、非常に有意義な時間となった。また、第一回は大学スポーツの統括組織が学内にある程度組織化されている大学を対象としたため、少人数での実施となり、東海地区の大学間のスポーツ関連部署の人間が顔を合わせ、互いを知るネットワークづくりの根幹となる研修会となった。

※第二回、第三回の SA 研修会の実施に関して、講師として依頼した大学の担当者と参加大学の日程調整が難しく次年度以降への持ち越しとなった。次年度以降、本学予算で実施を計画中（予算獲得済）。

参加者へのアンケート

第一回東海地区大学 SA 研修会に参加した本学含む 7 大学（愛知大学、愛知学院大学、日本福祉大学、至学館大学、中京大学、東海学園大学、名城大学）にアンケートを実施。詳細は下記の通り。

（1）次回以降どういったテーマを学びたいか。
・体育会と大学の関係性
・SA の業務内容の明確化、業務の範疇、SA の役割・資質・基準
・会計について

・スポンサー獲得、スポーツの収益化
・予算配分の制度設計
・指導者の位置づけ

(2) 他大学の事例を踏まえて特に学びたい分野
・スポーツに関しての学内的なコンセンサスをどうとっているか
（どういった会議体が設置されているか）
・強化指定部決定の判断基準
・各運動部の評価について
・強化クラブと一般部の入替について（どのように各部の活動を評価しているか）
・体育会クラブの会計監査の事例
・体育会学生への倫理教育の事例
・学園または大学組織図におけるスポーツ局の位置づけ
・UNIVAS が対象としている競技スポーツとそれ以外の課外活動（サークル等）や学生会（自治会）との関係

次年度以降の研修体制

大学スポーツの改革に関して、東海地方の大学は当事者意識が希薄であり、理由や意味もよく分からないまま UNIVAS に加盟している大学がほとんどである。これまで SA または SA 相当の教職員が一堂に会する機会もない中で、2018 年に本学主催で大学スポーツ振興東海地区検討会を開催し始めた。

本事業採択を踏まえ、東海地区の大学スポーツを本学がリーダーシップを発揮し、先進的な好事例を学ぶ場として活用していく方針を改めて上層部に提案し、承諾を得ることができた。そのための次年度の学内予算も確保することができた。

また、その中核となる第一回東海地区大学 SA 研修会の参加メンバーにも、次年度以降の方針を伝え、賛同を得ることができた。特にこういった他大学の事例を学ぶ機会は少なく、ぜひともお願いしたいという意見が大多数であった。

以上の経緯を経て、東海地区大学ＳＡへの研修体制は東海地区大学スポーツ検討会に移行されることが決定された。

②先進的な取り組みをしている学校への視察
・福岡大学へのヒアリング

大学スポーツの先進的な取り組みを行っている福岡大学へ視察及びヒアリングを下記の通り実施した。

日時：2019 年 11 月 28 日（木）10：00～13：00
場所：福岡大学
面会者：福岡大学スポーツ科学部　教授（サッカー部監督）　乾眞寛氏
福岡大学学生部学生支援課　課長　廣瀬和也氏、課長補佐　日髙英史氏

福岡大学は、大学スポーツの統括組織がないものの、各クラブの入替制度、評価指標が明確に定められており厳しい評価と支援が一体となっている仕組みは先進的であった。

部単位では特にサッカー部が先進的な取り組みをしており、年間スポンサー料で収益をあげていた。さらに、福岡大学はミズノと協定を結んでおり、本学のようにユニフォームの開発のみではなく、正課の授業とも連携させた取り組みを実施していた。本学が目指すべく今後のモデルケースと呼ぶに相応しい先進的な事例であった。

今回のヒアリングで、本学でも強化クラブの評価指標の参考となるほか、地方の私立大学としての差別化に寄与できる知見を得ることができ、非常に有意義な視察となった。

・武庫川女子大学へのヒアリング

大学スポーツを活用し、地域へのファンづくりを念頭に置いた先進的な施策を進めている武庫川女子大学へ視察及びヒアリングを下記の通り実施した。

日時：2020 年 12 月 2 日（月）10：00～13：00
場所：武庫川女子大学中央キャンパス
面会者：MWU スポーツセンター　センター長　坂井 和明 氏
MWU スポーツセンター　スポーツアドミニストレーター　三好　雅之 氏
MWU スポーツセンター　スポーツアドミニストレーター　山本　真美子　氏
MWU スポーツセンター　栗谷　沙葉子　氏

武庫川女子大学はスポーツセンターの事業の一環として、子どもを対象としたスポーツクラブ（LAVY‘s Sports Club）を運営している。地域へのファン層拡大を目的とした大学スポーツの先進的な取り組みと言える。スポーツクラブ等の有資格者である卒業生と連携し、補助として学生アルバイトを雇用しており、スポーツを軸とした理想的な連携体制をとっている。

特に素晴らしい点はスポーツ教室だけでなく様々な取り組みに対して、大学のキャラクターである LAVY を前面に出してブランディングしている点にある。大学と地域・企業・住民の方々が繋がり情報発信するコミュニティ創出ゾーンとして最寄り駅にステーションキャンパスを設置しており、LAVY‘s Café を展開している。

また、地域の飲食店等を巻き込み、武庫川女子大学の学生は学生証を見せれば割引サービスを受けられる「LAVY‘s Nation」という取り組みを実施している。

目的は一貫性がありすべてファン層の拡大のため。大学スポーツを中心とした地域コミュニティの形成を目指している。加盟店は学生たちが多く来店するきっかけとなることから、本事業に加盟する。NBA の Nation が参考になっている。また、スポーツビジネスの授業と連携しており、受講生を①既存店へのアプローチ②加盟店の新規獲得③認知度調査④動画制作（広報）の４グループに分け活動させていた。

・新潟医療福祉大学へのヒアリング

大学スポーツの先進的な取り組みを行っている新潟医療福祉大学へ視察及びヒアリングを下記の通り実施した。

日時：2020 年 1 月 29 日（水）10：00～13：00
場所：新潟医療福祉大学
面会者：スポーツ振興室長　西海　幸頼　氏、稲田　茂高　氏
　　スポーツ推進室長　髙橋　孝輔　氏

組織的にスポーツに関連する部署が 2 つに分かれる大学は珍しく、スポーツ推進室が中長期計画を含めた主な計画を描き、スポーツ振興室が体育会強化クラブの管理をしていた。計画的に地方で大学スポーツを発信していく姿勢には非常に参考になった。

本学と大きく異なる点は、強化指定 10 クラブ（水泳部、サッカー部（男女）、男子バスケットボール（男女）、陸上競技部、女子バレーボール部、ダンス部、硬式野球部、卓球部）606 人のみを管理しているとの点であった。新潟医療福祉大学理事長でもある池田弘氏がアルビレックス新潟の会長職を務めていることから、アルビレックス新潟（プロサッカークラブ、地域型地域スポーツクラブ）とは緊密な関係にある。そのため人材交流を含めた連携が実現できていた。

本学がプロスポーツチームとの人材交流や連携を模索する場合、スポンサー契約や協定締結などの壁を乗り越える必要があり、同様の取り組みを行うことは一朝一夕には困難であることが分かった。強化指定クラブへの取り組みとしては、部員のために学食を 20：30 から解放（@680）、JISS と同様のサポートを大学内の組織横断で実施しているとのことだった。また強化指定クラブへは年次報告（競技成績、選手獲

得状況など）を課しており、サポートと評価が一体化している。健康、医療、スポーツ系の学科で構成されていることから、スポーツ担当副学長を設けていることも本学とは異なる点であった。今回の訪問を機に、今後も情報交換や学生交流（HOME&AWAY による交流試合等）を検討していくことで意見が一致した。

【スポーツを通じた地域活性化と収益力向上に向けた取り組み】

本取り組みに関しては、別紙報告書を作成。

【学生アスリートのグローバルキャリア育成(海外の学術協定校との定期交流戦の実施)】

本学の学術交流協定校である台湾の台北市立大学、銘傳大学とスポーツを通じた国際交流を実現することで、学生アスリートのグローバルキャリアの育成を目指す。実際に異国の地で異国の文化に触れ、言葉が通じない環境の中で、スポーツを通したコミュニケーションを実体験することで、国際社会の中でスポーツの持つ意味を再認識させ、学生たちのキャリア観にグローバルという視野を芽吹かせる。同時に現地企業等（みずほ銀行台湾支店等を予定）を視察し、実際に海外で働く方との交流の機会を設け、グローバル人材の育成を目指す。

特に相互理解の点においては、渡航前と渡航後に、学生アスリートに向けた事前事後の学修を課し、国際社会の中でこれまでに果たしてきたスポーツの役割と今後のスポーツの可能性を考えさせる機会とすることで、国際的な視野で思考し、判断できるグローバル人材の育成も両立させる。同時に、国際的な場で活躍するための自国の文化に対する理解の醸成がいかに必要であるかを学ぶ機会と捉える。

・渡航学生への第一回研修プログラムの実施

日時：12 月 3 日（火）17：00～18：30

場所：中京大学豊田キャンパス

講師：中京大学研究支援課係長　兼　社会学部研究所研究員　鈴木哲造　氏

対象：サッカー部学生（渡航可能性のある学生）40 名、マネージャー1 名、指導者 3 名

内容：テーマ「東アジア国際社会のなかの日本と台湾」

・「米」からみる日本と台湾のつながり

・中京大学と台湾の関係

・中京大学社会科学研究所と台湾研究
・近くて遠い国−台湾
・台湾事情

研究支援課係長兼社会学部研究所研究員として台湾の歴史を研究している鈴木哲造氏が渡航学生への研修プログラムとして、「東アジア国際社会のなかの日本と台湾」というテーマで講義を行った。台湾の歴史的背景やエスニックグループ等、渡台するにあたり基礎となる知識の充実を図った。また、今回訪問する台北市立大学と銘傳大学は本学と非常に縁のある大学ということもあり、お互いの交流関係についても説明し、今回の渡航でグローバルな視野を持つことの必要性を訴えた。

※2020 年 1 月 31 日新型コロナウイルスの拡大による感染リスクに鑑みて、2019 年度中に本学が主催する東アジア及び東南アジアに渡航する留学プログラムの中止を決定した。本事業も同様に中止することとなった。